

目前に世界最大級の地震の果。海し
か逃げ場がない人たち。それでも、四国電
力伊方原発に差し迫った危険はないとい
う。「過ちは繰り返しません」。広島、
福島が噴き胸に突き刺さる。

2017-4-1

論説

伊方仮処分却下

何をそんなに急ぐのか

あと戻りが加速する。
「日本で最も動かしてはいけない
原発」。伊方原発を、そう呼ぶ
人は少なくない。

世界最大級の断層帯である中央
構造線が間近を走り、南海トラフ
巨大地震の想定震源域にも近い。
三月末で高知大防災推進センタ
ーを退任した岡村真・前特任教授
は、中央構造線の活動性を指摘し
「計算通りに地球は動かない」と
警告した。

地元愛媛新聞が先月までに実施
した愛媛県民の世論調査では、再
稼働に否定的な意見が七割近く
に上る。六割以上が避難計画の実効
性に疑問を感じ、過半数が放射線
被ばくの不安を訴える。
伊方原発は、日本一細長い佐田
岬半島の付け根にある。半島唯一
の国道197号は地滑りの危険地
帯。つまり、逃げ場がない。

それでも広島地裁は、原子力規
制委員会に地震動の過小評価は
なく、避難計画の是非は棚上げに
して「住民が放射線被ばくにより
重大な被害を受ける危険はない」
と結論づけた。「人格権」も侵
害されていないとして住民らの
運転差し止めの申し立てを却下し
た。

昨年十一月、愛媛県は重大事故
を想定し、原発二十ヶ所内の住民
ら二万三千人が参加する大規模な
避難訓練を実施した。
重大な被害の危険がないなら、
このような訓練をしたり、安定目
ウ薬剤を配布したりする必要もな
いではないか。

「原子炉施設から放射性物質が
放出される」との不安な安全性を確
保することは、少なくとも今の科
学技術では不可能だ。わが国の社
会がどの程度の危険性であれば容
認するかは社会通念を基準とする
しかない」。昨年四月、九州電力
川内原発1、2号機の運転差し止
め請求を退けた、福岡高裁宮崎支
部が提示した判断の枠組みだ。

松山など三つの地裁に同様の請
求がなされており、全国各地で原
発運転差し止めの裁判が続く中、
今回の決定は、現在唯一の高裁判
断である福岡高裁の枠組みに従う
べきだという考え方の上に立つ。

電力事業者、政府、そして司法
にも、あらためて問い直したい。
「ロシマやフクシマの不安と噴
きを置き去りに、誰のため、何の
ために、今再稼働を急ぐのか。」